

柏崎のイソニガナ生育地の現状報告

佐藤俊男* 滝沢則之**

1、はじめに

イソニガナ(キク科) *Ixeris dentata* subsp. *nipponica* Kitam. は、周知のとおり柏崎市内の東之輪、青海川など、米山海岸の海蝕崖下部のやや湿った斜面にしか生育していない植物である。1920年に中井猛之進博士によって記載され、環境庁のレッドデータブックの中でも絶滅危惧種に指定されている貴重な種であるので、ここに現状を報告する次第である。

2、調査年月日

1993年 4月18日(日) 青海川付近

1993年 4月29日(木) 笠島付近・青海川付近

3、調査内容

分布および生育密度等の調査

4、確認された群落および生育密度等

(1) 青海川鴨ヶ鼻、だるま岩対岸付近(図1. A地区)

海蝕崖にダイモンジソウ・タヌキラン・オオバギボウシなどとともに群生している。生育密度は1㎡に10株程度は見られる。上記の他に2箇所群落が見られるが、生育密度はさらに高く1㎡に20株以上確認できたところもあった。なお、この群落は海蝕崖が直接海に落ち込んでいるため、荒天時は近づくことができないのみならず、好天時においても海蝕崖が、したたり落ちる水で滑り危険である。

(2) 青海川駅付近(図1. B地区)

駅周辺の崖地に個体は少ないが生育している。群生しておらず、数個体をみたのみである。生育環境は鴨ヶ鼻と同様であるが、駅裏の崖は、モルタルの吹き付けが施工されている。

(3) 笠島地区(図1. C地区)

六宣閣下部の日本海に面した海蝕崖に群生している。この生育地は強風時および荒天時は近づくことは、不可能である。生育環境は、青海川とほぼ同様でダイモンジソウ・タヌキラン・オオバギボウシなどとともに群生しているが、イソニガナが植生の優占種となっている部分も一部認められた。

生育密度は1㎡に20株以上確認できるところも多く、良好に保存されている環境で

あると思われる。

旧国鉄信越線の跡周辺の崖地にも若干の群生が確認できる。

なお、県道周辺および海蝕崖上部の樹林周辺ではニガナが群生しており、イソニガナと明確に区別されるのは興味深い。

5、おわりに

イソニガナの生育の現状を報告したわけだが、いずれもが開発によって消滅してしまうおそれのある場所であるだけにより一層の保全・保護が必要であろう。現に荒浜のミヤマシジミの生息地の殆どが失われてしまった。一概に指定にする必要はないかと思うが、それなりの保護を考えていただければ幸いである。

* 柏崎市立博物館

** 上越林業事務所

